

指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	学習場面		
タイトル	手作りフェイスシールドとアクリルボードの活用		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	難聴のため常に補聴器を着用し、ロジャーを使って聞こえを確保する支援をしている。さらに、筆談や指文字や絵図を示す等の視覚支援も併用している。コロナの影響で全員がマスクを着用するようになったために、話し手の口の形を見ることができず、言葉を正確に聞き取ることができにくくなったという困難が生じている。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	そこで、透明アクリルボードで仕切りをつくり、フェイスシールドを手作りして使うことにより、困難の改善に努めている。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	マスクの着用、入室の際の手の消毒、座席を離し、なるべく正面を避け横側で支援をしている。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

《手作りフェイスシールドと透明アクリルボードの仕切りの活用》

下の写真のフェイスシールドを手作りし、特別支援学級での授業の時に使っている。これを使うことにより、難聴児に口元が見え、口の形が見えることで、ア音列を発声しているのか、イ音列を発声しているのか、オ音列を発声しているのか…が視覚的に伝わり、何を言っているかを認識するのに役立っている。また透明アクリルボードで教師と児童の席を仕切ることで、教師が正面を向いて話すときの飛沫防止対策をとっている。



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	学習場面、日常生活		
タイトル	ソーシャルディスタンスに気をつけよう		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	授業時、給食時、マスクをすることができないために、飛沫が友達にかかってしまう恐れがある。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	感染防止のために自作フェイスシールドをして食事するまで待つことができる。相手の顔が見えるので授業中の不安は軽減される。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	フェイスシールドによって、授業中や食事をしているときも唾液の飛沫が少なくなる。		

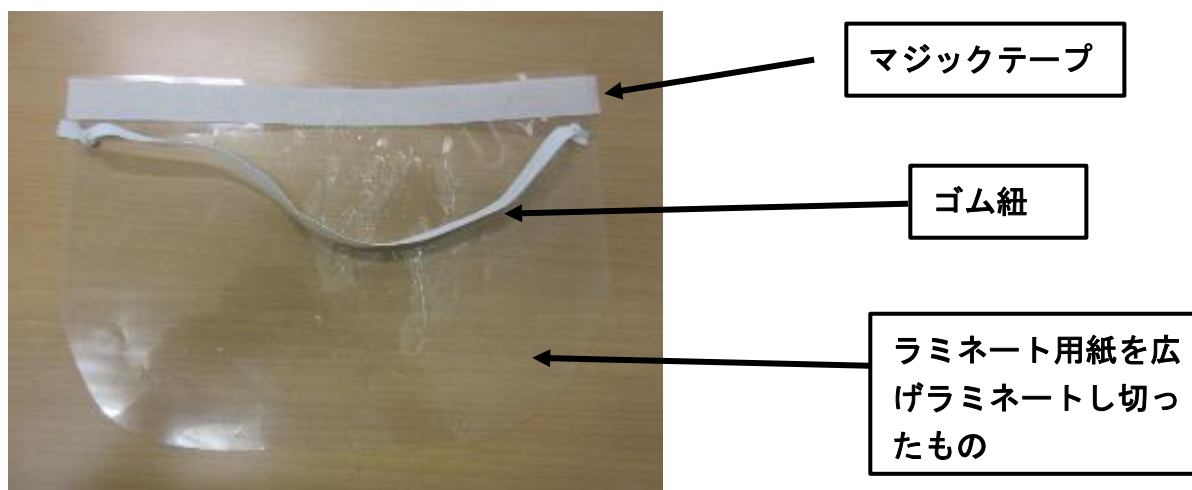
※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

ラミネートの感熱用紙（１００均などで売られているもの）を広げてラミネートし、それにマジックテープをつける。パンチで穴をあけてゴムひもを通す。

ヘッドギアを毎日、装着しているのでそのヘッドギアの額の部分にマジックテープの部分をつけることで顔を覆うことができる。ヘッドギアの後頭部の部分にゴム紐を引っかける。

透明であるため、圧迫感が少なく、姿が見えるため視界も良好で使いやすい。

授業中、給食中など飛沫感染が心配な場面で活用している。（マスクをすることができないため）



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	学習場面、日常生活		
タイトル	口の動きの見えるマスク		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	本児は口の動きを読み取って相手の話を聞く事が多い。ただ、一般的なマスクを使用すると口の動きが見えず、話していることが分からない。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	話している人の口の動きが分かり、そこから何を話しているのか読み取ることができる。 相手の表情が見え、安心できる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	大声で話しても、唾液の飛沫が少なくなる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・ 一般的なマスクの代わりに使用する。
- ・ 透明なので表情が見え、子どもにとって受け入れやすい
- ・ 透明なので話している人の口の動きが分かり、そこから何を話しているのか読み取ることができる。

※①は口の見える手作りマスク(呼吸や発声で曇ってしまった)

※②はフェイスシールド(光の反射で見えにくいことが多かった)

※③はクリアマスク(これが一番よく見える)

①



②



③今はこれを使っている



指導事例

※ 該当する項目を囲み線で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・5・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	学習場面・日常生活		
タイトル	口が見えるマスク		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	周囲の人のマスク装着により、口が見えず、話している内容が分かりづらい。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	口元が見えることで、話している内容が分かりやすく、不安が軽減される。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	マスクを取らずに話せることでお互いの感染予防につながる。 口形の練習をしても、唾液の飛沫が少なくなる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

- ・自作のマスクの口の部分を切り取り、透明のクリアファイルを表地と裏地の間に挟み縫い込む。
- ・クリアファイルの上部と下部に切り込みを入れ、重ね合わせることで立体的になり、呼吸をしやすくなる。

